

提出された意見の内容と町の考え方について

【第3次菟田町男女共同参画行動計画(案)について】

No	意見の内容	意見に対する町の考え方
1	<p>精神的にもはや男尊女卑のような過去の思想は、今の日本人は持ち合わせていない印象。DVも男性が女性にという構図ではなく、逆もあり得ると理解していただきたい。</p> <p>そういった意味で、DVに関して相談できる窓口を目に付きやすい形で広く広報してほしい。例えば多くが持っているスマートフォンのLINEを活用したり、SNSの広告を挟むなど。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。令和3年度に実施した菟田町男女共同参画に関する町民意識調査によると、本町においては固定的性別役割分担意識が解消されつつあるという結果になっている一方で、男女の地位の平等感について本町では生活の多くの場面において男性が優遇されていると感じられていることが分かる結果となりました。調査結果からも、社会的地位の不平等や、アンコンシャスバイアス(無意識の差別や偏見)による固定的性別役割分担意識の解消には、まだ至っていないと認識しており、男女共同参画社会の実現に向け、引き続き啓発に努めて参ります。</p> <p>DVについて、配偶者・パートナーからの暴力の経験があるとする男性も存在することは、町民意識調査の結果からも承知しております。</p> <p>行動計画の基本目標Ⅲにおいて、DV相談体制の充実を掲げており、DV相談窓口の情報が必要な人に届くよう、周知に努めることを事業内容に掲げております。相談窓口の広報については、菟田町内の相談窓口は勿論のこと、福岡県が開設する各相談窓口についても、わかりやすい形で周知を図ってまいります。</p>
2	<p>案の計画、検討ありがとうございます。</p> <p>男女共同参画について、記載されているデータ、また自分の実感からも共同参画に対する捉え方が昨今とても前向きで、男女の在り方の理解が進んできたと思っております。</p> <p>ただ、あくまで当たり前と捉える頭ができたということであり、社会制度、性別の取り扱いも含め社会として共同参画について自然な立ち振る舞いができるかという少し疑問を覚えます。気持ちとして尊重し合い平等と思っても、社会の慣習が立ち塞がった時に改革のための話し合いをせず妥協してしまうようでは形骸化し絵に描いた餅で終わります。区長業務のように女性では調整ごとができない、のではなく女性ではステーキホルダーと接する機会が少なかったため経験的に未熟、ならどうするかを考えたく思います。慣習、制度に対し疑問を持ち、手間と時間がとてもかかるほどの根本的な改革をするには意識、社会共の当たり前化が必要で、それは生活上にて男女お互いを尊重し合う機会に多くあり、当たり前と思えるほどの実体験からの腹落ちによるものだと思います。人々の腹落ちは日々の積み重ねによるグラデーションのようなじわじわした変化だと思いますので、ボランティアや町づくりイベントのお手伝い参加など男女共同作業が発生するような市民活動の機会の増加定着を狙い、何回も反復することによる腹落ちを促進する必要があると思います。男女は違います、しかし尊重し合う部分が双方あり、それを見つけ当たり前と思える機会、回数が必要です。接触機会の多回数というプロセス指標を立てるのも良いのではと考えています。</p> <p>自分の感覚で書いており大変恐縮なのですが、参画意識の定着は第二フェーズにきているのかなと思います。自らの実体験に基づいた腹落ちです。</p> <p>目標を達成するには意識改革と社会変革が必要だと思います。transforming our worldを踏まえた行動が未来の社会を作るのではないのでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。本町では男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなく自らの個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指して、これまでに様々な取り組みを進めて参りました。ご意見の通り、男女共同参画の進展に一定の成果はみられるものの、依然としてまだ多くの課題があると考えております。</p> <p>本町の第3次菟田町男女共同参画行動計画におきましては、あらゆる施策にSDGSの理念(「だれ一人取り残さない」)を取り入れております。SDGSにおいてはすべての目標のためにジェンダー平等の実現が死活的に重要であると位置づけられており、あらゆる施策にジェンダー平等の視点を反映していくことが求められています。</p> <p>本計画においても64項目にのぼる具体的施策を掲げていますが、計画を推進するにあたり、男女それぞれが抱える困難や課題を理解し合う機会を取り入れ、今後も男女共同参画社会の実現のため、様々な施策を講じて参ります。</p>